

木もれ陽

文責 平川 千秋

「時の記念日」～一日も人生～

今週、6月10日は時の記念日です。この日は、天智天皇の時代（さて、何時代か、すぐに答えられますか？）に日本初の水時計が鐘を打った日と言われています。制定されたのは1920年。今から100年前のことです。



一日は誰にでも平等に24時間。「長いなあ」と感じる日もあれば、「このまま、永遠に続けばいいのに……。もう終わっちゃった。」というくらいあっという間に過ぎてしまう日もあります。この一日という時間をどう使うかは一人一人に任されています。



漫画『ドラえもん』には「流れ去った時間は二度とかえってこないんだ。」というセリフがあります。多くの人々が「時間」について言葉を残しています。

「時間を浪費するな。……人生は時間の積み重ねなのだから。」（ベンジャミン・フランクリン）

「時間は希少な資源である。時間が管理できなければ他の何事も管理できない。」（ドラッカー）

「時間は存在しない。存在するのは瞬間だけである。」（トルストイ）

「誠実に君の時間を利用せよ。何かを理解しようと思ったら、遠くを探すな。」（ゲーテ）

「“たら・れば” はやめた。時間は前にしか進んでいけないから。」（小倉隆史）

「一日も人生」これは30数年前に同じ学年を受け持った隣のクラスの先生が教室に掲示していた言葉です。まだ経験が浅かった当時の私は、「確かにそうだな」とは思ったものの、実感としては理解できませんでした。そして、「今日できなくてもまた明日があるさ」と、ずいぶん時間を無駄にしていたと思います。今になって、一日の大切さ、その時にしかできないことの大切さを身に染みて感じています。

「いつかやるから」では物事は何も成し遂げられません。「昨日やっておけばよかった」と後悔しても、昨日は二度と来ません。「今、この瞬間に自分は何をどうやるか」この積み重ねこそが、私たち一人一人の人生を作っていくのだと思います。

授業中の皆さんを見て回ると、背筋をピンと伸ばして説明に聞き入っている人、課題プリントにひたすら取り組んでいる人、机と密着してしまっている人、いろんな姿が見えます。先生が大事なことを説明していても、その瞬間に聞き逃すと大事なことは流れていってしまいます。もったいないなあと感じます。反面、ボーッとしているように見えても自分の頭の中でじっくり考えをまとめる時間だったとすれば、貴重な時間になると思います。



今の皆さんにとっては、まだまだ無限にあるように思える時間。でも、誰にとっても、今、この瞬間が人生で一番若い時間です。

一人一人に平等に与えられた時間。玉造中生の皆さんには、その中で、自分の人生のページを鮮やかに、確実に刻んでほしいと思います。